

スズメバチから身を守るために

近年、スズメバチの刺傷被害は山間部だけでなく都市部でも増加しています。ハチ刺されによる死者は毎年 20～30 人にのぼっており、熊や毒蛇による死者の数をゆうに上回っています。このため、スズメバチは「南のハブ、北のヒグマをこえる危険動物」とまで言われています。

スズメバチの被害から身を守るには、スズメバチについて正しい知識をもち、的確に判断し対処することが大切です。

① スズメバチとは？

日本には 16 種のスズメバチが生息しています。中でも、「オオスズメバチ」と「キイロスズメバチ」による事故が最も多く発生しています。

〈オオスズメバチ〉
3～4 cmの大きさで、
強烈な毒をもち、か
つ攻撃性も非常に高
いことから、十分な
注意が必要です。



〈キイロスズメバチ〉
2～3 cmの大きさで、黄
色の縞模様が広く、オ
オスズメバチと並んで攻
撃性が非常に高く、十分
な注意が必要です。



スズメバチの一年

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
越冬期			活動期						越冬期		



春になると女王蜂は冬眠から覚め、一匹で巣を作ります。



7月頃に羽化を始めた働きバチが、狩猟や巣づくりをようになります。



9～10月は働きバチの個体数や巣が最大になる時期です。



10～11月頃に女王蜂が羽化します。成長して栄養を十分に摂取すると巣を離れ、朽木の中などで越冬します。

② いつ頃が危ない？

夏から秋にかけて働きバチがどんどん増え、次世代にバトンを渡す繁殖時期にもなり、外敵に対する攻撃性が最も高くなります。

③ スズメバチに刺されないために！

- ・何といたっても巣に近づかないことが第一。
- ・身体の周りをスズメバチが飛び始め、スズメバチが何度も行ったり来たりしたら近くに巣がある可能性が高いです。
- ・さらに近づくと、スズメバチが目の前に飛んできて、顎を打ち鳴らして「カチカチ」という警告音・威嚇音を発します。この音はスズメバチの最後通告です。
- ・直ちにゆっくり後退してその場を離れましょう。
(大声・大きな音を出す、慌てて走り出す、ハチを手ではたく等は絶対にしてはいけません。)



④ 野山に出かける ときの心がけ



- ・ 長袖、長ズボンによる肌の保護が基本。
- ・ スズメバチは黒い部分を襲う習性があるので、白や黄色等の服や帽子を着用することが望ましい。
- ・ 殺虫スプレーを携帯すること。(虫除けスプレーは全く役に立たない。)
- ・ 一人だけの行動は避け、複数で行動すること。ただし、あまり大きな集団になると、振動や動きでハチを刺激する危険が増すので注意すること。
- ・ 化粧品や香水には、スズメバチに攻撃行動をもたらす成分が含まれている場合があるので、使用は控えること。



⑤ 刺されたときの対処法



- ・ 冷たい水で患部を洗い流しながら、毒と血液を絞り出す。
 - ・ 痛みや腫れがある場合は、氷や保冷剤などで冷やす。
 - ・ 直ちに医療機関へ搬送する。
(救急車を呼ぶことをためらわない。)
- ※口で毒液を吸い出すのは危険なので絶対しない。



⑥ アナフィラキシーショックとは？

【アナフィラキシーショック】

ハチ毒や食物、薬物等が原因で起こる急性アレルギー反応のひとつです。

【症状】

じんましんや皮膚が赤くなる等の皮膚症状や、ときに呼吸困難、めまい、意識障害等の症状を伴うことがあり、血圧低下等の血液循環の異常が急激にあらわれるとショック症状を引き起こし、生命をおびやかすような危険な状態に陥ってしまうことがあります。

【処置】

安静を保ち1秒でも早く医療機関(可能であれば専門医)を受診することが大切です。